

Y20b

## 高校生天体観測ネットワークのアイソン彗星観測計画とその成果

塚田健（平塚市博物館）、大西浩次（長野高専）、小林仁美（LLP 京都虹工房）、鈴木文二（春日部女子高校）、豊田哲也（アストローツ）、畠浩二（岡山商科大附属高校）、船越浩海（ハートピア安八天文台）、渡部潤一（国立天文台）、ほか高校生天体観測ネットワーク運営委員会

高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) は、全国の高校・高専の天文系部活動等を結ぶネットワークで、学校教員や天文学研究者、科学館職員等、天文教育普及活動に携わる有志によって運営されている。1998年度のしし座流星群を契機に発足し、2000年度からは流星群以外も観測テーマに加え、多くの高校生に幅広い天文現象の観測を体験してもらってきた。

2013年度は太陽に非常に接近し、肉眼彗星になることが期待されたアイソン彗星 (C/2012 S1) を観測テーマとして取り上げた。彗星を撮影しその光度を測定、光度変化を追うことをメインテーマとして設定した。彗星の光度変化は彗星活動の指標となり科学的な成果に結びつけることができるとともに、比較的簡便に観測・解析ができることから、多くの高校生に参加してもらうことができる。全国の高校生が観測を行い、Astro-HSのネットワークを活かして結果を集約することで、より精度の高い光度曲線が得られることが期待された。

テーマに沿って観測ガイドを作成し公開した。観測結果は国際的なフォーマットに準じて各グループが報告、運営委員会が集約できる形を整えるとともに、光度変化をリアルタイムに追えるようなフォームも準備した。

アイソン彗星は、残念ながら近日点通過時に崩壊・核が消滅してしまったとみられているが、本発表では近日点通過前までに得られた観測データとともに、活動の成果を報告する。